

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・計画的に制作活動に取り組めるよう、毎時間のめあてや見通しを確認させた上で活動させることができた。
- ・これまでに学習した材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かせる題材を設定し、指導していくことができた。
- ・活動内容によって教室環境を整備し、児童にとって活動しやすい環境をつくることができた。
- ・児童にとって、手や体全体を十分に働かせたり、材料や用具の適切に扱ったりできるように指導できた。
- ・身近にある作品や自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さを感じとったり、自分の見方や感じ方を広げさせたり、お互いのよさを認め合ったりすることができた。

(2) 課題

- ・材料や用具自体のよさについて理解するだけではなく、活用する能力を高めていく必要がある。特に、学習したことを次の題材でも生かすなど、学習のつながりを意識させた指導をしていく。
- ・制作過程における児童の進度の差が大きい。一人一人が、思い浮かべたものを満足のいく形で作り上げられるよう、授業以外の時間も使いながら支援していく。同時に、計画性をもって活動していけるように指導する。
- ・児童同士（特に、全校児童同士）の鑑賞の場を設け、お互いのよさを認め合えるよう指導をしていく。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・これまでに学習した材料や用具などを生かすことができるよう、声を掛けたり、ポスターを掲示したりする。 ・計画的に作品作りに取り組めるよう、題材全体や一単位時間の流れを掲示する。 ・用具を安全に正しく使うことができるよう、口頭や参考動画で使用方法を丁寧に説明する。 ・用具を扱う時間を十分に確保する。	・児童にとって簡単で、楽しめる材料を使うことで、組み合わせ方や切り方、つなげ方など、イメージを膨らませる。 ・互いの作品の色や形のおもしろさやよさを見つけ合う時間を設けるようにする。 ・身近にある豊かな自然環境や季節感を活用して、五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を使って造形感覚や感性を磨いていく。	・材料と触れ合う時間を設けたり、ICTや実物の作品を見せたりする等、題材への意欲を高めていく。 ・自分の思いを最後まで表現できるよう、個に応じた指導をしていく。 ・身近にある作品や自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さを感じとったり考えたりと、自分の見方や感じ方を広げさせる。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・計画的に作品作りに取り組めるよう、題材全体や一単位時間の流れを掲示する。 ・示範演示やICT機器等を使用した参考作品等の提示を行うことで、作品作りへのイメージをもちやすいようにする。 ・様々な用具を扱える題材を取り上げ、創造的な学習活動につなげる。	・学んできた表現方法、材料などを生かしながら制作活動に取り組めるよう、材料や用具を児童自身に選択させたり、様々な方法を組み合わせたりできるようにする。 ・各題材において、一人一人のアイデアや作品のよさを見つけ、伝え合う時間を設ける。 ・自分たちや身近な造形など、身近な作品を活用して、造形感覚や感性を磨いていく。	・材料と触れ合う時間を設けたり、ICTや実物の作品を見せたりする等、作品作りへの意欲を高める。 ・自分の思いを最後まで表現できるよう、個に応じた指導をしていく。 ・お互いの作品を鑑賞する活動を通して、それぞれの違いや努力を認め合えるような場面を設定し、自分の見方や考え方を広げさせる。

